

主催：社会福祉法人 建昌福祉会

# 第12回さざんか園シンポジウム

## 地域包括ケアシステムの行方 ～今、求められる連携とは～

平成24年11月25日(日) 10時～17時

場所：みなみホール(鹿児島市与次郎1丁目9-33)

定員：300名

### 【趣旨】

平成24年4月介護保険法が改正された。団塊の世代が75歳になる2025年を見据えた改正である。ここ最近、急に地域包括ケアシステムという言葉が飛び交うようになったが、果たして具体的にどんなシステムであるのか。厚生労働省が示したイメージにすら理解に苦しむものが多いのではないだろうか。具体的な施策の1つとして24時間定期巡回・随時対応型訪問介護看護サービスが導入されたが、果たしてどの程度普及し機能するのか未知数である。

今後、おそらく地域包括ケアシステムは、その地域の数だけ存在するシステムとなり、その地域の特色や規模によっても大きく変容するものとなるだろう。もし、それぞれの抱えている限界点を引き上げるものが地域包括ケアシステムであるとするならば、介護保険施設、在宅サービス事業所だけでなく、医療、民生委員、地域住民、行政の協力体制も必要不可欠である。これまでのように安易に「連携」という言葉で片付けてしまえば、絵に書いた餅になりかねない。

今回のシンポジウムでは、それぞれの立場からの活動報告や提言を踏まえ、「連携」を具体化しながら地域包括ケアシステムの本質と今後を探る。

### 【当日プログラム】

講演1 厚生労働省 社会・援護局 総務課長 古都 賢一氏

講演2 桜美林大学大学院 教授 白澤 政和氏

シンポジウム：テーマ『地域包括ケアシステムの行方』～今、求められる「連携」とは

コーディネーター： 厚生労働省 社会・援護局 総務課長 古都 賢一氏

シンポジスト： 厚生労働省 (未定)

鹿児島県保健福祉部

介護保険課 参事 八田 冷子氏

桜美林大学大学院

教授 白澤 政和氏

鹿児島県介護支援専門員協議会

会長 黒木 隆之氏

始良市北山診療所

所長 毛利 通宏氏

鹿屋長寿園

法人統括本部長兼副施設長 林田 貴久氏

【費用】研修参加費 お一人 弁当代込3,000円(弁当なしは2,500円)

※ ご入金後のキャンセルにつきましては、参加費のご返金は致しませんので予めご了承ください。

ご欠席の際には、後日、資料を送付させていただきます。

事務局：社会福祉法人建昌福祉会 在宅ケアセンターさざんか園

TEL0995-67-0887 (徳元、内田、山田)

# 第12回 さざんか園 シンポジウム

## 『地域包括ケアシステムの行方』

～今、求められる「連携」とは～

### <参加申込要領>

☆ シンポジウムの参加を希望される方は下記の要領にてお申込み下さい。

- ① 別紙参加申込書に参加される方のお名前と連絡先を記入して下さい。
- ② 事前にご入金できる場合には、次に指定する銀行口座にお振込みをお願い致します。
- ③ 当日、受付でお支払いすることも可能です。別紙申込書にて必ず支払方法をご選択下さい。

振込先 鹿児島銀行 始良支店 普通 3005784

振込名義人 ササノカエンシンポジウム代表 さざんか園シンポジウム代表伊東安男

※口座名義は余白なしで記入して下さい。

- ④ 振り込み控え書(コピーでも可)を参加申込書の指定の場所に貼って、FAXまたは郵送でお申込み下さい。さざんか園にて受付を行い、当日の受付票をFAXまたは郵送にてご返信いたします。  
(11月22日までに受付票の返信がない場合は、お手数ですが実行委員会までご連絡下さい)
- ⑤ お振込みは、11月20日(火)までをお願い致します。それ以降は、当日に受付にてお支払いください。  
なお、お弁当は当日の申込み、及び当日のキャンセルができませんのでご了承下さい。

【お申込み・お問い合わせ先】

### 《さざんか園シンポジウム実行委員会》

〒899-5421 鹿児島県始良市東餅田3352-1

社会福祉法人 建昌福祉会 在宅ケアセンター さざんか園

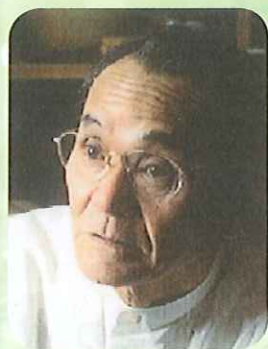
電話 0995-67-0887

FAX 0995-67-0818 (担当：徳元、山田、武井)

基調講演

# 「やさしさの心って何?」

～朝顔に つるべとられて もらい水～



講師 **みなみ 陽** のぶたか **信孝**さん (元萩市教育長、萩金谷天満宮宮司)

- ★ 1939年1月、山口県萩市生まれ  
国学院大学文学部日本文学科卒業
- ★ 30年以上にわたり教職に携わり、  
小・中学校校長、萩市教育長などを歴任

- ★ 1998年3月妻の介護のために教育長を退任 現在、萩金谷天満宮宮司を務めながら講演会多数
- ★ 夫婦で同時発病! 老老介護の11年間

★ 自らはがんを発病、迫り来る死の影にひるむことなく闘病、4度の手術から生還し、アルツハイマーの妻を11年間(4000日余り) 献身的に介護を重ねる日々…24時間やさしさを買き通すことがいかに難しく、厳しいことか。介護の日々を乗り越えられたのは、家族や友人・知人、そして温かく見守り続けてくれた周囲の人々からの限りないやさしさを頂いたおかげだと感謝し、また妻にも「やさしさをありがとう」と感謝し、講演会活動を行っている。

★ 著書に『雲流る』『八重子のハミング』などがあり、大反響を呼んでいる。

- ★ 「奇跡体験! アンビリバボー」
- ★ 「みのもんたの危機一髪」
- ★ 「NHKおはよう日本」で紹介され話題に!

## ◎スケジュール

・開会	13:00
・主催者あいさつ	13:05
・基調講演	13:10
・パネルディスカッション	15:15
・閉会	16:15



## パネルディスカッション

【テーマ】「支え合い・認め合って生きる」

コーディネーター

- 高崎 恵さん (オフィスピュアワークショップデザイナー)  
自治体職員研修等でワークショップデザイナーとして活躍

パネリスト

- 陽 信孝さん (元 萩市教育長、萩金谷天満宮宮司)
- 林田 貴久さん  
(特別養護老人ホーム鹿屋長寿園法人統括本部長、認知症ケア専門士 / 鹿児島県認知症介護指導者)  
重症心身障害者施設、特養のケアマネージャーや相談員を経て、現在、鹿児島県の認知症介護実践者研修、リーダー研修、管理者研修などにかかわるほか認知症ケアの啓発、施設における身体拘束廃止など、各種介護研修会にて講師を務める。
- 上妻 幸治さん  
(居宅介護支援事業所ヴィラかのや管理者、主任介護支援専門員、社会福祉士)  
現在、在宅介護のケアプラン作成に携わるほか、鹿児島県介護支援専門員協議会肝属支部事務局理事を務める。

日時 平成24年 **11月17日(土)** 13:00～

会場 **リナシティかのや 3階大ホール**

主催 **鹿屋市**

## 入場無料

託児あり  
(託児は事前に申込みが必要です。)

# アルツハイマーという病気になった妻に 4度のがん手術から生還した夫が贈る愛の言葉

## 内 容

私自身 4 度のがん手術を受けて、最初の胃がんの時から妻の様子がおかしくなった。その時はまだ誰も妻のアルツハイマー病は知る由もない。がんで入院、再発、手術、その度に妻の病気は少しずつ進行し、がんの再発の危険を抱えた私には妻の介護は言葉にできないほど辛かった。

目には見えない小さな変化が、ある日突然、大きな変化となって現れて家族をあわてさせ、私の心臓を凍りつかせる。そしてまたしばらく小康状態が続くというのが、妻のアルツハイマーの特徴である。

発症してから 11 年の間に、字が読めなくなり、書けなくなり、計算ができなくなる。会話が续かなくなり、徘徊が始まり、娘の顔さえ忘れ、自分で食事ができなくなった。そしてついにトイレの始末がまったくできなくなったのである。

脳細胞が萎縮していく過程で、妻の場合は膀胱に尿からの指令が届かなくなり、膀胱が収縮せずに伸びきったままになった。それは自分の意思に関係なく、膀胱がいっぱいになると自然にあふれ出るという状態になったということである。

アルツハイマー病がなぜ短命なのか。ようやく理解できた思いがする。いずれ尿毒症を起こして死を早めるのだろう。

高齢化社会を迎えようとしている今、こうした家族の病気を、家族の問題として世間から包み隠しておくべきではないということである。むしろ隠せば隠すほど本人も家族も追い込まれていき、それはひいては家族の崩壊につながる。ささやかではあるが、そうしたことを訴え続けることで、少しでも多くの皆さんに、痴呆やボケ、アルツハイマーという病気を正しく理解してもらいたい、そしてこうした病気を抱える家族を、地域社会が何の偏見もなく受け入れてほしい。そう願って、できるだけオープンに生きることを決心した。

「幼な子に  
かえりし妻のまなざしは  
想いで連れて  
我にそそげり」

